

今回もOSBEELS（オレゴン州試験ボード）のウェブサイトに掲載されている、Examinations & Qualifications Committee（試験資格審査委員会）の議題・議事録から気になるトピックをお知らせします。今回は2011年8月12日、及び10月14日の議事録が対象となります。

(8月12日)

・ 委員会に、自分の参加した活動が Continuing Professional Development (CPD) の要求事項を満たすかどうか問合せがあったので、調査の結果、彼の活動を認める決定をした。不明な点があれば、積極的に委員会に問合せの方が心配なくて良さそうです。

・ 特例要求

あるStructural の受験者が、5名のReference（推薦者）が必要なところを3名で認めるよう特例措置を要望していたが、委員会ではこれを受入れなかった。

・ 受験申請について

受験許可：9名

- PLS、5名のReferenceが必要だが4名分しかなかった（上記との違いが微妙?）
- Civil PE、Civil Engineering のMaster of Science、4年以上の業務経験、5名分のReference、Utah 州にてNCEES のFE 試験にパス
- Electrical PE、25年の経験を示す5名分のReference、但し指導的立場のPE のReference がない
- FE、物理学の学士号とElectrical Engineering の修士号
- Metallurgical PE、博士号を1年間の業務経験と同等に見做すよう要望
- FE、地質学と地球物理学の学士号と追加の履修
- FE、地質学の学士号、4年間の追加履修、水資源工学の 修士号
- Mechanical PE、11年以上の業務経験を証明する5名分のReference があるが、指導的立場のPE のReference がない
- FE、最近のNCEESの評価基準の変更により、過去の学位が Accreditation Board for Engineering Technology (ABET) 適合であることが明確でない

委員会ではNational Council of Examiners for Engineering and Surveying(NECCS) を10月のミーティングに招待し基準変更について討議し、それまではケース・バイ・ケースの対応をする

受験不許可：1名

- FE、4年半の大学での履修 + 1年7か月の業務経験 + 3名分のReference
- 学部長の証明があれば、次回2012年4月は受験可能。様々なケースで特例措置が検討されている

すので、諦めずに最善を尽くすことが肝要です。

- 2 度の試験で合格できなかった申請者については、再受験に際して行った試験準備の証拠を提出する必要がある。

39 名の該当申請者のうち、10 月に受験するための申請が通った者が29 名、4 月に受験できる可能性を残したものが10 名である。

・ Comity (他州エンジニア) 申請

- Electrical PE、1949 年にElectrical Engineering の学位、Columbia 地区で1955 年にFE 合格、1986年に同地でElectrical とMechanical のPE 試験に合格、NCEES のアップデートされた登録フォームにより、同地で現在もPE として登録されていることを証明、30 年以上の業務経験を示す職歴表と10 名分のReference がある。更に、彼が満たしている要求事項を決定するために参照した、1977～1986 年に適用されていた規則は、オレゴン州の当時の要求事項とも合致していた。⇒ Comity 申請が認められた。
- 2011 年1 月のProfessional Development Hours (PDH) 監査において、2 名が情報要求に応じなかったとして、Regulation Department に照会された。うち1 名が日本人である。

(10 月14 日)

委員会では、NCEESの受験資格審査マネジャーStefani Goodenow氏を招待し、2011 年1 月より、学位の審査基準として、ABETの替りにNCEESの「Engineering Education Standard」を採用している、との情報を得た。これを受けて、委員会では受験資格の審査を、引続きケース・バイ・ケースで実施していくこととした。

「Engineering Education Standard」は以下のリンクから参照できます。

http://www.ncees.org/Credentials_evaluations/NCEES_Engineering_Education_Standard.php

ここには、あくまでもEAC/ABET適合の学位でない場合にはこの基準を用いる、と記載されていますが、JSPE としても引続きモニタリングを続ける必要があるかと思えます。

・ 特例要求

2011 年秋のWashington 州Structural III の受験料を、2012 年春のOregon 州Civil の受験料に転用したい、という要求があったが、却下された。

□NCEES は、2011～2012 年のDale Jans 氏がPresident を務める期間が開始したこと、及び2014 年1 月より、FE とFLS の試験がコンピュータ・ベース (CBT) となることを通知した。

・ Comity (他州エンジニア) 申請

- Electrical PE、1986 年にフィリピンの大学で取得したElectrical Engineering の学位の非公式評価表、12 年以上の詳細な職歴表、5 通のReference、フィリピンでの登録に基づいてPE として現在

登録されているとするArizona 州の公式証明書、及びフィリピンでの登録の公式証明書を提出。⇒申請は却下、但しcomity 申請料をFE 試験に振向けることを認める。

- Electrical PE、1973 年にElectrical Engineering の学士号、及び1977 年にSystem Engineering の修士号取得しているという証明、1972 年と1978 年にPennsylvania 州のFE 及びPE 試験にそれぞれ合格しているという公式証明書、現在も同州で登録されているという州の証明、これまで合格してきた試験についての同州の文書、30 年以上の認定エンジニアとしての経験を表す職歴表、及び6 名分のReference を提出。⇒ 申請が認められた。

2011 年7 月のCPD 監査

- 12 PDH + 自己学習と業界団体メンバーであることをまとめたレターが提出された⇒猶予期間を設ける。
- 町内会合 1 回につき1 PDH を認めるよう要望 ⇒ 最大6 PDH まで認める
- Retirement status を求めるe-mail 受領 ⇒ 却下。
- 2009 年1 月1 日～2010 年12 月31 日間のCPD 監査につき、猶予期間を設けるよう要望 ⇒ 却下された。
- 2009 年1 月1 日～2010 年12 月31 日間のPDH を証明する書類を準備できない⇒ 却下された。